

早期発見には定期検診が重要

がんは喫煙の発症リスクと関係が深い。喫煙とがんの関係は、喫煙による発症リスクの増加を抑制するだけでなく、がんの早期発見や予防に重要な役割を果たしている。喫煙による発症リスクの増加を抑制するためには、喫煙を減らすだけでなく、がんの早期発見や予防に重要な役割を果たしている。喫煙による発症リスクの増加を抑制するためには、喫煙を減らすだけでなく、がんの早期発見や予防に重要な役割を果たしている。

日本人女性がかかるがんの中で最も多いのが乳がん。食生活や女性のライフスタイルの変化によって増加してきたが、喫煙との関係も注目されている。喫煙が乳がんの発症に与える影響について、乳がん専門医の先田功氏に聞いた。

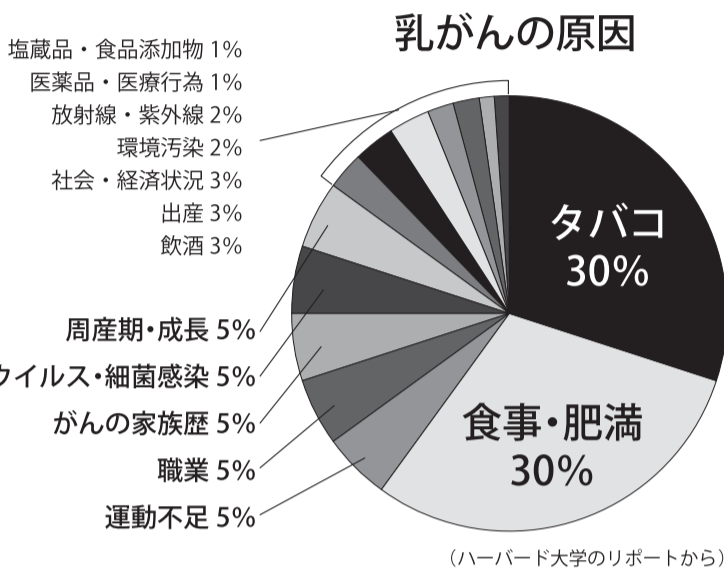


乳がん専門医 さきたクリニック院長 先田功氏に聞く

たばこなき社会

実現目指して

たばこなくしてがんリスク3割減



女性の晩婚化や少子化など社会環境が変化し、女性ホルモンが分泌される期間が増えて、乳がんのリスクは高くなっている。遺伝的因子を避けるようがないリスク要因がある中で、禁煙はがんの発症リスクを減らすのに重要な役割を果たしている。

喫煙は努力で避けられる。喫煙を減らすことは、がんの発症リスクを減らすのに重要な役割を果たしている。

乳がんの早期発見や予防に重要な役割を果たしている。喫煙を減らすことは、がんの発症リスクを減らすのに重要な役割を果たしている。

喫煙は努力で避けられる。喫煙を減らすことは、がんの発症リスクを減らすのに重要な役割を果たしている。



たばこのない社会を目指そう。きょう31日は、世界保健機関（WHO）が各国に呼び掛ける「世界禁煙デー」。今年のテーマは「Get ready for plain packaging（プレーン・パッケージを推進しよう）」。

WHO「世界禁煙デー」テーマ Get ready for plain packaging (プレーン・パッケージを推進しよう！)

兵庫県タバコフリー協会

「受動喫煙防止の国際基準は、たばこ規制枠組み条約（FCTC）という国際条約が定めている受動喫煙防止の国際基準では、全ての公共施設、職場、公共交通機関は、全面的に終日完全禁煙である」と話している。



兵庫県タバコフリー協会 潤会長に聞く

分煙は受動喫煙防止ではない



兵庫県タバコフリー協会では喫煙について問題提起など、活発に運動している

国際基準の規制、国の責務で

「有効な受動喫煙防止対策の効果は、既にFCTCを順守して厳格に対策を行った地域で、心筋梗塞が20%前後減少したという。例えばスコットランドでも「飲食店従業員の血中ニコチンが減少し、受動喫煙による疾患が30%減少した」と明らかにされた。分煙はスティーブ・ワグネルが提唱したように、十分な認識を広める研究が不可欠だ。分煙はスティーブ・ワグネルが提唱したように、十分な認識を広める研究が不可欠だ。分煙はスティーブ・ワグネルが提唱したように、十分な認識を広める研究が不可欠だ。

「受動喫煙防止から禁煙へ！」

6月4日、神戸でフォーラム
「2016年世界禁煙デー」をテーマに意見交換会を開催。座長は兵庫県神戸市中央区の兵庫県タバコフリー協会会長 藤田直彦氏。第2部では今年度のテーマ「受動喫煙防止から禁煙へ」をテーマに特別講演する。第1部はシンポジウムで、兵庫県健康増進課副課長の稲田直彦氏、兵庫県医師会副会長の足立光平氏、兵庫県タバコフリー協会副会長の藤田直彦氏が参加。参加無料、申し込み不要。兵庫県医師会副会長の藤田直彦氏が司会進行する。



毎年恒例世界禁煙デー」に行われる禁煙啓発パレード＝神戸市中央区